

### 秦野・霊園開発

# ルート変更に触れず

## 市民要望に市側が回答 進入路、事実上容認

オオムラサキの幼虫20匹以上が越冬する移植予定の  
エノキ＝八国見山で



秦野市渋沢にある八国見山(319㍓)南面区域の大規模霊園開発問題を巡り、霊園への進入道路のルート変更などを求めた住民グループの要望に対し、同市が「環境への影響を最小限にするよう指導していききたい」と回答したことが分かった。ルート変更には触れておらず、事業者が計画する進入道路建設を容認した格好だ。

八国見山周辺の渋沢丘陵はクスギ、コナラが群集し、1990年の県地域環境評価書で「極めて良好な自然緑地」として最高のA1ランクに評価された。国蝶オオムラサキの県内最大級の繁殖地で、葉がエサ、幹が産卵場所になるエノキも自生している。

NPO法人「日本チヨウ類保全協会」の調査では、霊園計画地周辺には幼虫が20匹以上越冬するエノキが少なくとも5本あり、うち3本が道路建設で影響を受ける可能性が大きいとされた。このため「渋沢丘陵を守る会」



八国見山に生息するオオムラサキ

県と市は、事業者に生育環境への影響をできる限り軽減するよう指導。3本を含める計4本が移植されることになった。

これに対し、開発に反対する住民グループ「渋沢丘陵を守る会」は、(日置乃武子代表は、繁殖地が壊滅される恐れがあるとして)5月末、市と事業者に対し進入ルート変更とエノキの移植見直しを求め、要望書を提出した。ルートは高さ約10㍓、胸高直径約60㍓で幼虫が20匹以上越冬する。移植されるエノキはいずれも高木で、移植は非常に難しいとされており、さらに進入道路建設による大量伐採で周辺区域の乾燥化が進む可能性も懸念されている。

同市は回答書の中で「幼虫に与える影響をできる限り軽減し、乾燥化対策も行って生育環境を保護できるように指導していききたい」とした。同会メンバーは「ルート変更も移植計画も見直しがない」として回答であり、繁殖地が壊滅状態になるという専門家の指摘が全く受け止められていない」と話している。

【高橋和夫】